

もみじ

—広島県山岳連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

第 20 回 山岳・辺境文化セミナー

人類と地球が生き延びるためのメッセージ

「世界を旅する」講師：石川直樹氏

10月 13日 広島県健康福祉会館 77名参加

10月 13日、広島市健康福祉会館にて、写真家の石川直樹氏を講師として、第 20 回山岳辺境文化セミナーが開催された。マナスル登頂に成功して 10 月 10 日に帰国されたばかりの石川氏は、若干お疲れのご様子だったが、豊富な写真と動画を交じえた辺境の踏査の経験談に、参加者は熱心に聞き入っていた。ご本人は、「冒険家」と呼ばれるのを嫌っており、「冒険家」とは、2008 年 2 月自家製の熱気球で太平洋横断を試みて行方不明となつた神田道夫氏のように、「肉を切らせて骨を断つ」ことができる人のことだと断言された。その神田氏と 1 回目の挑戦では石川氏も同行し、海に不時着して貨物船に救助されるという経験を持つ。救助まで荒海のゴンドラの中では、「まるで洗濯機の中みたい」という言葉がひどく生々しかった。（詳細は、第 6 回開高健ノンフィクション賞を受賞した「最後の冒険家」参照）

私は、石川直樹氏は後世「写真家」とか「探検家」ではなく、「行動する思想家」という評価を与えられる人だと思う。今回の講演も、「あー、面白かった」で急速

に忘却するのではなく、人類と地球が生き延びるための大切なメッセージと受け止めたい。参加者が、77名と少なかつたが、参加者全員に景品が当たつたのは、過去 20 回の開催を通じて初めてのことであり、皆さんには喜んでいただくことができた。（豊田和司）



講演する石川直樹氏

主な内容

団体会員紹介⑥	F C C	2
岳連短信	ひこばえ記念誌刊行	2
私の百名山 心惹かれた一景 その 6		3
全日本登山大会報告 福井		4
山の風景 22 白雲岳		6
岳連短信	2013 山岳・辺境セミナー	6
	緊急時連絡体制の徹底	6
	遭難対策基金規程	6

団体会員紹介 ⑥ F C C**7月発足 フリー・クライミング・クラブ
三倉、天応、窓ヶ山で練習**

広島県山岳連盟の皆様、はじめまして。私たちF C Cは活動を開始してまだ3ヶ月。広島一未熟な会です。ご指導ご鞭撻頂きますようよろしくお願ひいたします。（瀬川恭弘）

【発足の経緯】

2年あまり前、O Bを含むクライミングスクール仲間を中心に「自主練」と称して近隣のゲレンデでクライミング練習を始めました。

初回は、月一回のスクールだけでは一向に上達しないことにやっと気付いた2～3年生3人で天応へ。意気揚々と挑んだものの、たまたま出会ったスクールのスタッフの方から危険な自己流練習法について厳しく指摘を受けてしまいました。今にして思えば、その出会いがなければ、いずれ重大事故を起こしていたに違いありません。

その後、トップロープのセットなど練習方法の基本を教わり、お陰様でなんとか自分たちで「自主練」ができるようになりました。ほぼ週末ごとに開催し、人数も徐々に増え、多いときは20人程が集まるようになりました。

しかし、その運営は、リーダーも居らず都合のつくる人が集まり勝手に練習するだけ。自分たちなりに安全第一で取り組んでいたつもりですが、冷静に考えれば極めて危ない集団だったと思います。

そこで今年の春、常連で検討を重ね、よりふさわしい形を模索。結論は、「自主練」形式をやめ、会を創る、となりました。「F C C」＝フリー・クライミング・クラブと大胆で単純な会名も決定。そして、7月より活動を開始し、岳連にも加盟させて頂くことができた次第です。

【会運営】

創立会員5名が世話役となって基本方針を決め、他の会員と相談しながら運営しています。その後6名の

仲間が増えましたが、岳連の個人会員（スクール生）は、期の途中で会設立となつたので、来期から正会員として登録予定です。因みに年齢は30代から60代。女性は2名です。

今のところ、O Bやスタッフを含むクライミングスクール関係者や入校予定者に限って会員募集を行っています。体験山行を経て入会して頂きます。

【活動内容】

個々の会員の登山志向は様々ですが、会の力量と設立経緯を踏まえ、会山行はゲレンデとジムでのクライミングに限定しています。毎月第4日曜日を定期山行日とし、それ以外は掲示板を利用して日程調整を行っています。旧「自主練」仲間を中心にゲスト参加も受け付けています。

7月以降3ヶ月で10回の山行を実施しました。諸先輩のルート開拓・整備に感謝しながら、三倉岳、天応、窓ヶ山などで練習をしています。雨天時を中心に利用させて頂くセロのお陰でリードもこなせるようになってきました。

【今後の課題】

会員の目指すところは、スポーツクライミング、アルパインクライミング、さらには積雪期のクライミング、と様々です。それを実現するためには、力不足のF C Cから羽ばたいていくのが良いのか、会として力を付けるべきなのか。諸先輩方にお力添えを頂きながら方向性を見出して行きたいと考えます。

【会長】新田 昇 広島市佐伯区五日市6-1-3

090-5266-0646 082-922-2478

【事務局】瀬川恭弘 広島市西区南観音町8-41

090-3170-0647 082-231-0752

岳連短信**ひこばえ交流 15周年記念誌 10・20 発行 64頁**

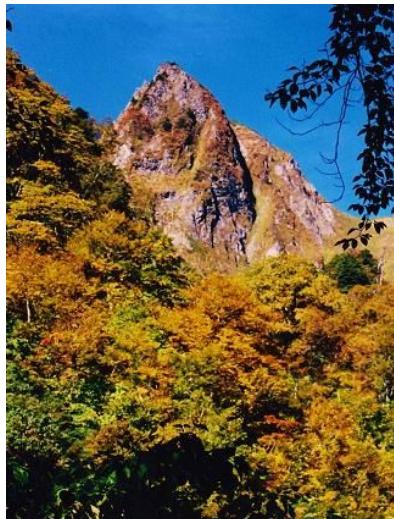
広島県山岳連盟登山教室が1996年発足して、15年になったのを記念して、ひこばえ（広島県山岳連盟登山教室同窓会）が記念誌を発刊した。内容は発足以来の歩み（役員、会員数、主要事項など）・山行記録（年月日、山名、標高、参加人数、参加率）規約、活動計画作成マニュアルなどを掲載している。

「私の百名山」心惹かれた一景 その 6

広島三峰会 会長 小方重明

北関東（続）

14. 岩峰（雨飾山 1963 m）



布団菱 撮影：1999. 10. 11

広河原から湿地帯に付けられた木道を歩く。まもなく山腹のブナ林の山道となり、やがて1時間半の登りで荒菅沢（あらすげさわ）に到着した。喉が渴いたので沢水を一気に飲む。おいしい水だ！

渓谷の奥を望むと、岩峰が屹立と背伸びをしている。紛れもなく雨飾山の岩峰である。同行のTさんの説明によると、布団菱（ふとんびし）と呼ばれているそうだ。岩に覆われた鉢のようで圧倒される。

15. 山装う（巻機山 1962 m）



錦秋に彩られた山稜 撮影：2009. 10. 16



六合目辺りの紅葉 撮影：2009. 10. 16

百名山 99 座目登頂を目指す巻機山は、井戸尾根からヌクビ沢にかけてナナカマド・ヤマハゼ・イロハモミジ・ブナなどに彩られ、全山が錦秋一色だった。

前巻機山の山頂で、弁当を食べながら至福のひと時を過ごし、下りは再び井戸尾根を歩いた。深紅に彩られた錦秋の山肌を眺め、足元のヨツバヒヨドリやリンゴウの花を愛でながら下った。

16. 山笑う（両神山 1723 m）



山を染めるアカヤシオツツジ 撮影：2002. 5. 1

山頂へ通じる尾根はアカヤシオツツジとアセビが咲き乱れ、まさに天上の花園だった。頭上に咲いたアカヤシオツツジの満開のトンネルを抜けると、頂が目の前に現れた。

静まり帰った山頂の岩に座って、野鳥のさえずりを聞きながら花、花、花…、奥秩父の山、山、山…、いつまでも至福の時間を過ごした。

第 51 回全日本登山体育大会報告

「福井の山の見どころ よいところ」

講師 増永迪男氏

10月 27 日～29 日 福井で開催



藤川 昌寛

第 51 回全日本登山体育大会が福井県ではじめて開催された。期日は平成 24 年 10 月 27～29 日。白山開山の祖は「泰澄大師」泰澄（たいちょう、）は、奈良時代の修剣道の僧。加賀国（当時越前国）白山を開山したと伝えられる。越の大徳と称された。

この白山を開山した泰澄を感じながら、越前の名山、百名山のひとつとして九頭竜湖の北西の独立峰、荒島岳をはじめ取立山、大佛寺山、越知山、野坂岳、岩籠山の福井五岳に全国から集まった 220 名がそれぞれ分散して登る。この大会の会場は福井市 敦賀市 大野市 勝山市 あわら市、永平寺町、越前町であった。

初めて福井県で開催されること。今回広島からは広島大学山の会から藤川昌寛、田賀雅文、渡辺勝俊の 3 名が参加した。荒島岳は一回目は単独行、二回目は広島大学山の会の先輩・地元の増永迪男さんの案内で、広島大学山の会石橋満雄の三人で登った。増永迪男氏は著書「取立山」がある。今回は三人とも水芭蕉で有名なその「取立山」に登った。

第 51 回全日本登山体育福井大会の記念講演会があった。その第二部「福井の山の見どころ 良いところ」として講師：増永迪男氏（ますながみちお）1933 年福井県生まれ 79 歳、福井山岳会会长。

◎プロフィール 登山家、山岳エッセイスト

1967 年・アフガニスタン・ヤジュン峰登山隊リーダー
1968 年・国内、県内の山々登山を通じて、文筆活動に入る。広島大学山の会会員でもあり、私の 3 年先輩でもある。

主な著書一覧：霧の谷/霧の谷 2 /日本海の見える山/取立山/しらやま考/福井の山 150/霧の森/霧の山/踏絵踏まざりし者の裔（こ）我等/風景との出会い/夜明けの霧の山/喜寿になつても山のぼり「春夏秋冬山のぼり」/などがある。

[記念講演会は 1 時間ばかり福井の山は若狭と越前に大きく分かれ、山々のその特徴、小浜港おばまが古い時代の重要な貿易港、そこからの陸路として都までの道、鰐街道、鮮度を保つための要所、要所までのリレー方式、これは初耳だ。

峠みちの変遷、峠みち脇道の形成、重い荷物を運ぶため丁寧な作りと絶妙な勾配加減、鹿の為、笹が激減、トリカブトの繁茂、まるで自分が歩いている感じになる語り口。全国から集まった中高年、特に女性の固唾をのんでの聴衆雰囲気が周囲に感ぜられた。

NHK ラジオ放送 11 年の実績

増永迪男氏は 11 年にわたり NHK ラジオ朝一番 5 時 10 分に生放送の全国放送されている実績があり、NHK 放送は現在も続いている、情景の分かり易さ、鳥の声、山の草花、風雨の音、色彩を取り入れ臨場感あり、自分があたかも其処にいる感じになる。話の間の取り方、話題の取り方、素晴らしい。郷土の山に対する愛情、私なんかその感性、根気、熱意、エネルギーにとても及ばないと肝に銘ずる。

体力が続く限り歩き続ける

10 年前に、ネット上、専門誌上で著名な国際温泉評論家山本正隆氏（世界温泉紀行 66 湯を平成 18 年上梓、広大山の会会員、増永氏の 1 年後輩）がヨーロッパ城跡・温泉 2500 km 旅行に誘ったが、増永氏の答えは「……山に登れる体力が続く限りまだやま歩きを続ける……」だった。

上記増永氏の著作集の中、「福井の山 150」の序に《よく晴れた日曜日に美濃平家（一四五〇m）に登つ

た。・・・越前の山やまが全て見渡せそうな展望だった・・・その時のことだった、山から山へと視線をさまざまよわせているうちに、「福井の山は何ほどもまだ知ってはいない」という思いが、突然湧き上がってくる。もちろん、今見る山やまの殆どは既に登ってきた。四季にわたって登った山も数多くある。しかし、日差しを浴びて様々な緑に輝いている山の姿を眺めていると、私のこれまでのこの広い山の中での歩みが、山頂を目指す細い線に過ぎなかったことに、改めて気づかされるのだった。}との記述があった、増永氏の答えはこれがベースになっていて気付いた。

この記念講演会を拝聴し 増永迪男氏の気持ちの一端を理解できたと確信した。懇親会で福井県山岳連盟の皆様の面々にご挨拶した、増永迪男氏が皆さんから慕われ方がやはりすごいと思った。

また以前のことになるが福井県立図書館で「ふくい山の文学」深田久弥 桑原武夫 増永迪男の企画展が‘08-6-17～7-31 開催された。 広島からは 藤川昌寛、石橋満雄が ‘08-7-23～7-25 福井県立図書館往訪した。

福井ゆかりの文学者 3 名

深田久弥 桑原武夫 増永迪男

この企画主催者の趣旨は次の言葉…

「山の文学として、最も知られているものの一つに、○深田久弥の「日本百名山」がある。本著は日本中の山々から、山の品格・歴史・個性を基準に深田自身が百選選び、それぞれの山についての隨筆をまとめたもので、福井県からは荒島岳が選ばれている。旧制中学時代を福井で過ごした深田は、一生登山に親しみ、山の文学作品を数多く残した。

○桑原武夫は評論家・フランス文学者として知られる一方、登山家としても名を馳せた。三高山岳部時代より今西錦司、西堀栄三郎ら、後の山岳会を牽引していく人々とともに登山に打ち込み、54歳の時には京都大学学士山岳会の隊長として、パキスタンのチョゴリザ初登頂にも成功している。

○現在、山岳エッセイストとして活躍する増永迪男は、13歳の時に経験した白山登山以来山に親しんで

いる。34歳でアフガニスタンのヤジュン峯初登頂に成功してからは、より一層ふるさと福井の山に親しむようになり、福井の山についての文章を数多く発表するなど、戦後の福井の文学界で山の文学を展開し、独自の世界を構築した。」

以上、福井にゆかりのある文学者3名によって書かれた山の文学作品をとおして「ふくい山の文学」を見ていきたい。

この3者の中で増永迪男氏は広島大学山岳部では私に入学当初から教え込まれ以来半世紀、現在の信州にある広大山岳部山荘（鹿島クラブ）ライフを通して現在も親交が続いている。

増永迪男氏プロフィルを追加すると

1933年（昭和8年）7月9日、福井市に生まれる。福井県立乾徳高等学校、広島大学工学部を卒業、1946年8月（当時13歳）の白山登山より山に親しみ現在に至る。福井市在住。戦後の福井の文学界にあって、山の文学を展開し、山岳エッセイストとして独自の世界を構築した。1985年福井県文化芸術賞受賞、2000年福井県文化賞受賞。

先般広島野呂山にて日本山岳会広島支部例会山で山頂を登る、公益法人化したので修道大学山岳部を支援している、その中に中国からの女性留学生2名（一人は雲南省、一人は天津）もいた。リクエストで一番にこの広島大学山岳部第二部歌を声高らかに歌った。

彼女たちも分かるのであろう ウインクを送ってきた。

広島大学山岳部第二部歌 増永迪男作

- ・銀座のチムニーー背中が滑るよー！！
- ・黒なめらは足が滑るよ！
- ・ドンガメ岩で昼寝をすれば瀬戸の島々 波は静か！
- ・ここに 挑む我等が 広大アルパイン
- ・クラブのワカメのズボン
- ・オーオーオー 我等は日本一の山男
- ・ヒマラヤを目指す！！！

注 釈

- ・黒なめら=大きな壁のような一枚岩で雨水が垂直に流れ、いつもは黒光りしている岩。

・ワカメのズボン＝岸壁を登ると岩角でズボンが擦り切れる つぎはぎを縫い付けたズボンがワカメのズボンに見える。
 ・チムニー＝煙突 chimney のこと＝岸壁の縦の裂け目で、人が入れる位の幅のもの。これをのぼるには、体を内壁につっぱり、ひざと背中や全身の摩擦を利用して尺取虫のようはずり上がる。

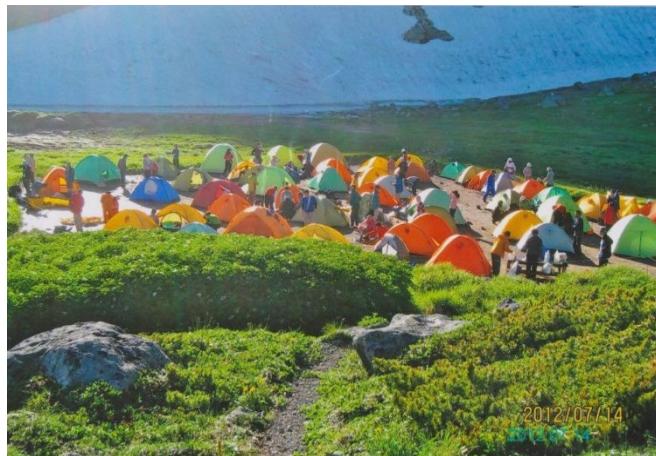
日本山岳会広島支部例会山行でテント泊例会ではいつもこの広島大学山岳部第二部歌がリクエストされるのでよく歌う。広島大学山岳部第二部歌を作ったのが増永迪男氏である。よき先輩を持ったことを誇りにしている。

山の風景 22

大雪山系（北海道）

白雲岳避難小屋キャンプ場

2012・7・14 写真提供 森 智昭



岳連短信

1、来年（2013年）山岳・辺境セミナー10月19日開催

来年の山岳・辺境文化セミナーの日程が下記の通り内定した。各団体とも参加の予定をお願いします。

日時：2013年10月19日（土）開場：13:30 開演：14:00

場所：広島市西区民文化センター

講師：竹内洋岳（登山家） 1971年生まれ。東京都出身。

立正大学卒。（株）I C I 石井スポーツ所属。プロフェッ

ショナルマウンテンクライマー。

2、緊急時連絡体制の徹底

事故等の発生については、「広島県山岳連盟緊急時連絡体制」を作成しているので、当事者は山田理事長（090-3370-2238）までただちに報告すること。

3、JAC Hiroshima 日本山岳会広島支部報

第45号 2012・10・1 発行 35頁

寄贈有難うございました

4、アンプ1峰（6840m）の登頂ならず

広島県山岳連盟70周年記念登山隊の速報が昨夜、山田理事長に入りました。残念ながら初登頂を目指したアンプ1峰の登頂は成りませんでした。本日（11月18日）中に、全員元気でナムチェバザルまで下山するそうです。（事務局長 豊田）

5、広島県山岳連盟遭難対策基金規程について

設置の目的：会員の遭難対策費用に充てるために遭難対策基金を設置する。遭難の定義：山行中の会員から要請があった場合。または、公的機関（警察・消防）に対し、第3者から捜索救助要請がなされたものをいう。

この規程は、平成24年1月11日から施工する。

詳細は岳連ホームページをご覧ください。

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○各研修会、講習会へ参加された方は積極的に報告書を提出ください。随時掲載いたします。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

題字デザイン 今村みづほ 編集 仲井正美